生産工学研究科応用分子化学専攻博士後期課程ディプロマポリシー

生産工学研究科に，所定の期間在籍し，日本大学教育憲章，生産工学研究科の教育目標並びに各専攻の教育研究上の目的に基づいた教育課程により，教育目標に沿った研究指導を受け，所定の単位数を修得するとともに，研究科が開催する発表会を経て提出された博士論文の審査及び最終試験に合格した者に，博士（工学）の学位を与える。
次の要求事項を満たしていることを，課程修了の目安とする。

研究及びその成果の公表などを通じて，社会の問題を自らの力で見出し解決し，新たに得た知見を世界に発信することができる。さらに学識を教授するために必要な能力を培うこと。

生産工学研究科応用分子化学専攻博士後期課程カリキュラムポリシー

生産工学研究科は，生産工学研究科のディプロマ・ポリシーに適う以下の人材を養成するため，博士後期課程を通じて，専門分野での特別研究を実施するリサーワークを実施する。
また，特別研究における研究・教育内容・方法，成績評価方法，及び評価基準をシラバス等で明示し学生に周知した上で，公正かつ厳正に評価を行う。
さらに学識を教授するために必要な能力を培う機械の設定やそのようなプレＦＤの情報提供に努める。

博士前期課程で修めた学識・識見に加え，該当する専攻のいずれかの特別研究（研究指導科目）を修得することにより，研究及びその成果の公表などを通じて，社会の問題を自らの力で見出し解決し、新たに得た知見を世界に発信することができる。さらに学識を教授するために必要な能力を培うこと。

生産工学研究科応用分子化学専攻博士後期課程アドミッションポリシー

生産工学研究科では，日本大学教育憲章に則り，自ら学び，自ら考え，自ら道をひらく能力を有し，社会に貢献できる人材を育成します。
このため本研究科では，以下に示す「求める学生像」を理解して意欲的に学修・研究を進めていくことのできる者を求めています。

「求める学生像」
（１）　生産工学に関わる幅広い知識を身につけ，自らの研究を遂行するために必要な倫理観を高めることができる。
（２）　学修を通じて得た知識を国際社会の多様な課題に適用し，自らの研究を論理的に説明することができる。
（３）　高度な情報を活用して論理的かつ批判的に評価することができる。
（４）　学修を通じて得た知識・技能等に基づいて，研究に関する問題を発見し，解決することができる。
（５）　高度技術者として，社会の発展に果敢に挑戦することができる。
（６）　国内外の多様な社会・環境の中で，他者の価値観を尊重した上で，適切なコミュニケーションを主体的に実践し，自らの考えを伝えることができる。
（７）　高度な技術の進歩に適応し，他者と協働することにより，グローバル化する知識基盤社会の発展に寄与することができる。
（８）　振り返りを通じて，自己の研究力，技術力を高めることができる。

なお，本研究科に入学を志す者は，「求める学生像」を理解していると判断し，入学試験では，口述試験，面接試験，学力試験等により，博士後期課程の学修に必要な「学力の３要素」を評価します。